

賛 助 会 員

有限会社浜野顕微鏡 (〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-18)

神協産業株式会社 (〒742-1502 山口県熊毛郡田布施町波野 962-1)

理研食品株式会社 (〒985-8540 宮城県多賀城市宮内 2-5-60)

マイクロアルジェコーポレーション株式会社 (〒500-8148 岐阜県岐阜市曙町 4-15)

共和コンクリート工業株式会社 (〒060-0808 北海道札幌市北区北 8 条西 3 丁目 28 札幌エルプラザ 11 階)

(株) 環境総合テクノス (〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町 1-3-5)

(株) 日本港湾コンサルタント (〒140-0031 東京都品川区西五反田 8 丁目 3 番 6 号)

ご投稿をお待ちしています

和文誌「藻類」は皆様の原稿で成り立っている雑誌です。原著論文のみならず、総説やその他の報文（記事等）のご投稿もお待ちしています。ご投稿に際しましては、最新の投稿案内（2017 年 3 月 30 日改正：第 65 巻第 2 号 p.138 に掲載）をご覧ください。（編）

編集後記

66 巻 2 号をお届けします。本号には藻類学会の藻類和名ワーキンググループからのガイドラインが掲載されていますので、新たな名称をお考えの方はぜひ参考に、会員外への啓蒙もよろしく願います。投稿論文はまだまだ少ない状況ですので、引き続きご投稿をお願いいたします。ちょうどこの編集後記を書いているのは、ロシアで行われているサッ

カーワールドカップがたけなわの 6 月下旬で、日本チームの活躍に若干寝不足気味です。そろそろ沖縄は梅雨明け、他の地域の方々はまだまだ雨の季節が続くようです。それにしても最近の雨の降り方の激しさと、降らない日の尋常ではない暑さは、やはり地球温暖化の影響なのでしょう。

（須田彰一郎）

表紙 ヒシに附着するアオコ殺藻細菌

作成者：大洞裕貴・今井一郎（北海道大学水産科学研究院）

作成者より：北海道函館市の五稜郭公園外堀に自生する浮葉植物ヒシの表面のバイオフィルムから、有毒アオコの原因藍藻 *Microcystis aeruginosa* に対して強い殺藻活性を示す細菌が高密度で検出されました。（本誌 111 ページ参照）

HITACHI
Inspire the Next

Transmission Electron Microscope HT7800series

Revolution of Ultimate Luxury Imaging by Hitachi HT7800 TEM

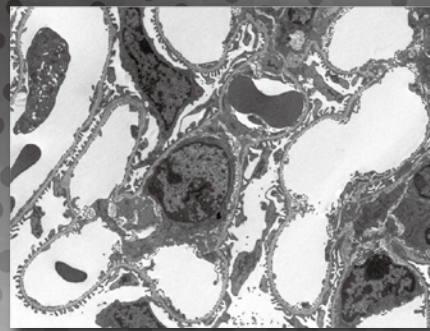
～バイオメディカルから材料まで～

革新的な操作性で、幅広い分野の要求に応える。

次世代TEM「*Ruli*TEM」誕生。

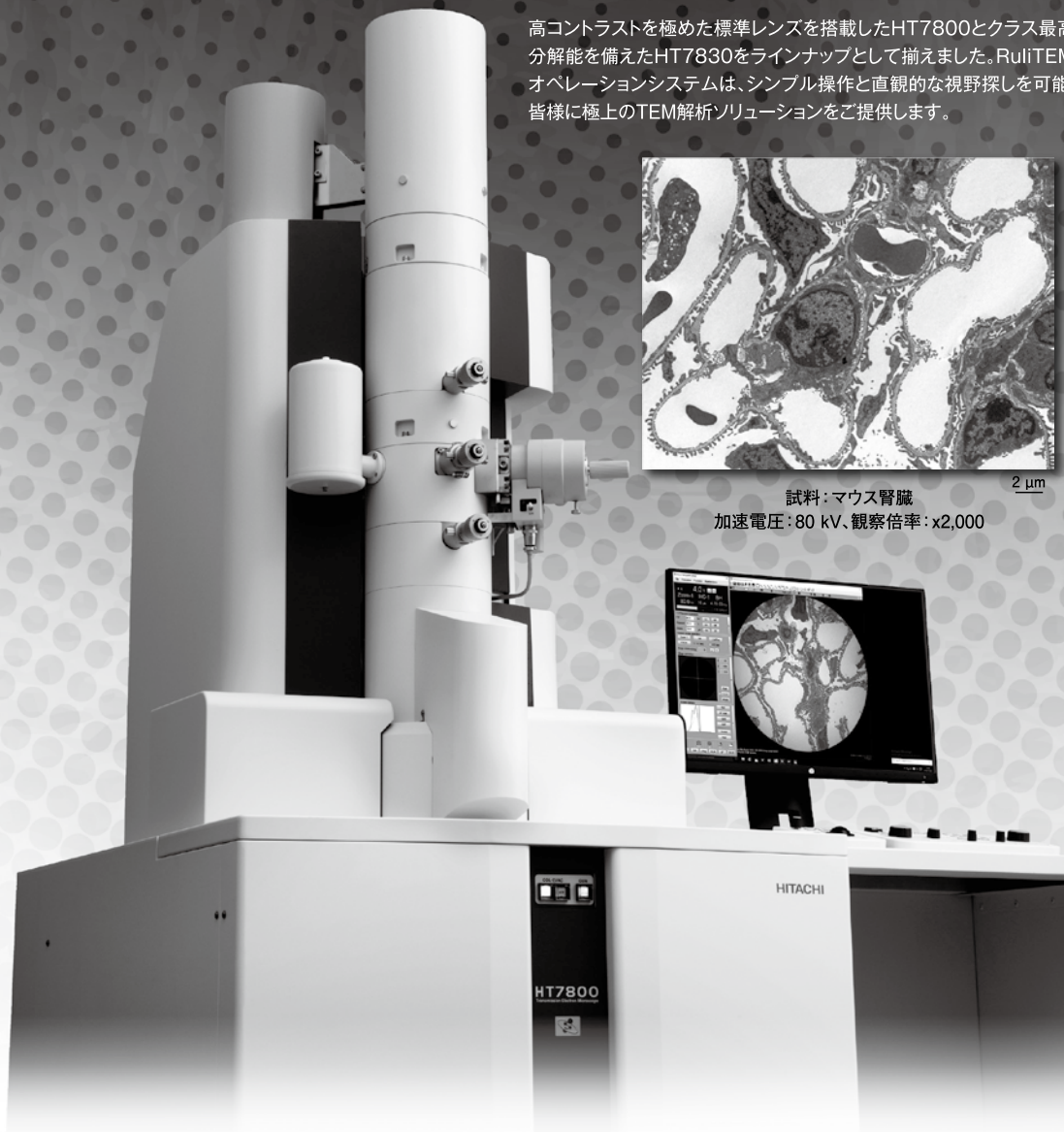


高コントラストを極めた標準レンズを搭載したHT7800とクラス最高レベルの分解能を備えたHT7830をラインナップとして揃えました。RuliTEMの新設計オペレーションシステムは、シンプル操作と直観的な視野探しを可能にします。皆様に極上のTEM解析ソリューションをご提供します。



2 μ m

試料：マウス腎臓
加速電圧：80 kV、観察倍率：x2,000



◎ 株式会社 日立ハイテクノロジーズ

本社 〒105-8717 東京都港区西新橋一丁目24番14号 電話 ダイヤルイン (03) 3504-6111
インターネットでも製品紹介しております。 URL www.hitachi-hightech.com/jp/science/

淡水藻類

淡水産藻類属総覧

山岸 高旺 著 B5判・1444頁・定価(本体 50,000円＋税)

本書は淡水における藻類、約1500属を収録した淡水藻類の属の総覧である。配列は淡水藻類を12分類群に分けるBourrellyの分類系を採った。これに加え異名とされるもの、関連するものをさらに約800属所収する。60年に及ぶ著者の淡水藻研究の集大成として、淡水藻類の全体像に迫る大著である。本文は、それぞれの分類群の「細胞・藻体」「生殖・生活史」「分類・分類表」を示した後、それぞれの属の記載が中心となり、線画による基本的な図版を示しながら、属の分類基準とされる形態形質、生殖形質、生育状況を述べる。また類似属との関係や産状など特記事項も詳細に記す。学名総索引をはじめ、和文、欧文の事項索引、また属名のカナ読み索引を付した。

小林弘珪藻図鑑

H.Kobayasi's Atlas of Japanese Diatoms based on electron microscopy

小林 弘・出井雅彦・真山茂樹・南雲 保・長田敬五 著 B5判・596頁・定価(本体 34,000円＋税)

本書は、珪藻の分類学の成書として長く刊行が待たれていた待望の書であり、斯界の第一人者、故小林弘博士の名を冠するものである。プレートとその解説をはじめ、特殊な用語が多く使われる珪藻の殻構造の解説を電顕写真や線画を添えて分かりやすく示す。分類体系には最新の研究成果を盛り込む。用語の英語、日本語、ラテン語の一覧表や、学名と和名の対照表などを付し読者の便宜を図った。

淡水珪藻生態図鑑

群集解析に基づく汚濁指数 DAIPo, pH 耐性能

渡辺仁治 編著 浅井一視・大塚泰介・辻 彰洋・伯耆晶子 著 B5判・784頁・定価(本体 33,000円＋税)

日本のみならず世界各地から約1500のサンプルを採集、膨大なサンプルの生態情報を処理検討し、約1000種の珪藻についてその結果を分かり易くまとめる。生態情報の妥当性を期するため、すべてのサンプルを統一条件下で採集し、好清水か好汚濁か＝きれいな水を好むのか、汚れた水を好むのか等を判断する環境指標としての珪藻群集の適性を、多くの図版で具体的に示す。

日本淡水化石珪藻図説

— 関連現生種を含む —

田中 宏之 著 B5判・612頁・定価(本体 33,000円＋税)

本書は日本の淡水成堆積物から見出された化石珪藻の図説であり、計236分類群を収録する(一部に汽水種、および現生の淡水珪藻も収録)。本文は各分類群の精密な電顕写真、和文解説、和英の図版キャプションから成り、解説の文献欄には、原記載、または標記の所属に組み合わせを行った文献、殻の形態、種の特性等を理解する上で参考となり入手しやすい文献を示す。試料は前期中新世から完新世までの地層から採取したが、一部は現在の湖沼から採取したものを含み、産出欄等への記載は、現生の浮遊・付着性試料は現生(Recent)、底泥の場合は完新世(Holocene)と記した。用語は基本的にRoss et al.(1979)、小林弘珪藻図鑑(小林ら 2006)で示されたものを使用。おもな用語は巻頭に図示した。

新日本海藻誌

— 日本産海藻類総覧 —

吉田 忠生 著 B5判・1248頁・定価(本体 46,000円＋税)

岡村金太郎著「日本海藻誌」以来、実に60余年ぶりに刊行された海藻学の決定版。斯界の権威が日本の海藻を網羅して書き下ろした歴史的大著。綱、目、科、属、種などの分類階級ごとに、形質の特徴、および他との比較などを詳細に記述。また「綱から目へ、目から科へ・・・」わかりやすい検索表が付く。各種ごとに極めて詳細、細緻な文献リストが付される。さらに種ごとにタイプ産地、タイプ標本、分布地域名が示される。学名、和名の由来、生育地の特徴など、関連する話題も豊富。

有用海藻誌

海藻の資源開発と利用に向けて

大野 正夫 編著 B5判・596頁・定価(本体 20,000円＋税)

本書は海藻の生物学の解説にはじまり、応用の具体的事例を数多く紹介するとともに、今後期待される新分野、機能性成分についても多くの知見を盛り込む。生物学編、利用編、機能性成分編の3編31章から構成され、各分野で長く研究にかかわってきた多彩な執筆者が、それぞれの専門分野を詳述する。